

## 平成 19 年度大学教育改革プログラム合同フォーラム JCD センター 報告書

平成 19 年度大学教育改革プログラム合同フォーラムが去る 2 月 9 日、10 日にパシフィコ横浜で開催されました。これは、全国の国公立大学・短期大学・高等専門学校の優れた教育プロジェクトを支援する取組みとして、文部科学省から採択された 10 のプログラム（「現代 GP」「特色 GP」といった各カテゴリー）が集結し、今年度選定されたプログラムを紹介するとともに、大学教育改革の現状について広く社会へ情報発信を行うためのフォーラムです。

今年度の合同フォーラムには、本学からも教職員合わせて 5 名が参加しました。本学は、「技術系女子学生の継続的なキャリアデザイン」が、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」のカテゴリーで選定されています。このカテゴリーは、平成 19 年度に新たにスタートしたプログラムです。初年度にあたる昨年度は 272 件の申請があり、そのうちの 70 件が採択されています。

本学は、初日のポスターセッションでブースを設け、技術系女子学生のキャリア形成・就業支援から卒業後の再チャレンジ支援まで、女性技術者としてのライフサイクルを視野に入れた継続的な支援プログラムの特徴について紹介しました。本学のブースには、300 名を超える来場者があり、多くの方々に対して本学の技術系女子学生支援の取り組みを紹介することができました。その他にも、平成 19 年度に採択された 10 のプログラムの中から数多くのポスターセッションによる選定取組等の紹介が 2 日間にわたり行われ、基調講演や特別企画講演等も実施されるなど、大変活況下で開催されました。

中でも、教育プロジェクト支援の成果と今後の展開に関するパネルディスカッションでは、選定されたプログラムの効果と課題に関して活発な意見交換が行われました。多くの支援事業に共通する本質は、海外の大学に対して競争力をもつ特色ある日本の大学の取り組みに対して支援活動を行うことにあります。特に、本事業に選定された期間中には、設備の充実とともに、人材の面においても大学活動を支援することが可能ですが、支援期間終了後には多くの課題が残されている現状が示されました。選定された期間が切れた後の人件費の問題は、事業の継続に関わる深刻な問題であり、せっかく選定された特色ある取組みが実現できなくなる可能性に関して議論されました。一方、選定された本学の「技術系女子学生の継続的なキャリアデザイン」においては、本学に設置された JCD センターを中心に、複数の教職員だけではなく学生相互の連携をも視野に入れたサポート体制が整っており、支援期間終了後においても継続的に女子学生支援機能の充実を図っていくことが可能であるものと考えています。

特に、大学教育改革プログラムに選定された各大学の取組みに対する効果が、他大学の参考になるという点は、選定された事業の重要なポイントであることは間違いなく、本学において実施されている、キャリア形成支援、就業支援、再チャレンジ支援を中心とした「技術系女子学生の継続的なキャリアデザイン」の取組みが、社会全体における女性技術者育成という観点からなんらかの解決策を提示することが可能になれば幸いです。